



明治中学校版「学校と地域の連携推進モデル事業」の成果

明治中学校では、社会に開かれた教育課程の実現を目指し、長年活動を続ける図書ボランティア活動や、上三川町教育委員会や地域コミュニティセンター等との連携活動をはじめ、地域に根ざした学校づくりを展開しています。また、生徒が地域で活躍するボランティア活動等は、学校運営の基本方針であります「主体的に行動する生徒を育て 生徒による『自治』をめざす」に向けた取組として、未来を生きる人材の育成につながる実り多い活動となっています。

子どもの学びを支える地域の教育力向上を図る本モデル事業は、生徒の豊かな人間性や主体的に考える態度を育むことにつながっています。

まちおこしORIGAMIと多様な団体との連携



公民館講座修了者を招いて



おもてなしORIGAMIとメッセージカード

まちおこしORIGAMI・・・上三川町では、創作折り紙の世界的先駆者である吉澤章氏の出身地であり、その業績を理解するとともに、世界に誇れる日本文化のORIGAMIを将来に継承しながら町づくりを進めている。

1年総合「地域を知る」では、まちおこしORIGAMIを導入として、学習を展開しています。

今年度は、いちご一会国体のフェンシングが上三川町会場で実施されましたが、上三川町教育委員会生涯学習課、及び公民館ORIGAMI講座修了者と連携し、生徒がおもてなしORIGAMIを作成し、メッセージを添えて、団体参加者に贈呈しました。

国体のスローガンである、感動をレガシーとして、未来の人づくりや地域づくりへの一助となりました。

生徒が主体的に地域に関わる貢献活動の推進



しらさぎマラソンボランティア

中学校段階の地域連携の目的は、「地域の中の自分の役割を学ぶ」や「地域の役に立つ」であり、学校外に出て活動することが求められています。そこで、本校では、生徒が社会教育施設や地域行事に主体的に関わる活動を奨励しています。実際に、夏休み理科実験教室サポートやしらさぎマラソンをはじめ、生徒が積極的にボランティア活動に参加し、地域の一員であることへの自覚が高まっています。

また、校内研修の際に、廣瀬 隆人 氏が、「特別活動は、地域づくりと深く関係し、地域を担う人材の育成につながる」とご教示くださいました。それにより、本校が推し進める生徒や生徒会が主体となって学校行事等を企画運営する「自治活動」の重要性を再認識しました。

現在ある教育活動を見つめ直して

本校には、多くの地域資源（ヒト・モノ・コト）が存在しています。

読書ボランティアが作成している壁面掲示物は、チラシや包装紙等を再利用したものです（費用はかかっていません）。旧暦や二十四節気、百人一首等、学習を盛り込んだ手作りカレンダーは6年分のストックがあり、上三川町の学校間では密かに話題になっています。



手作りカレンダー

そして、コロナ禍で中止となった夏休み学習ボランティア活動や明治地区コミュニティセンター祭りへの参加なども来年度は活動が待ち望まれるところです。

今後は、学校と地域を結ぶ吉田由美学校支援コーディネーターと協力しながら地域との連携を強めることで、現在ある教育活動の中から生徒と地域の方々とともに活動する場を通して、生徒の未来を切り拓く力を更に育てていこうと考えています。